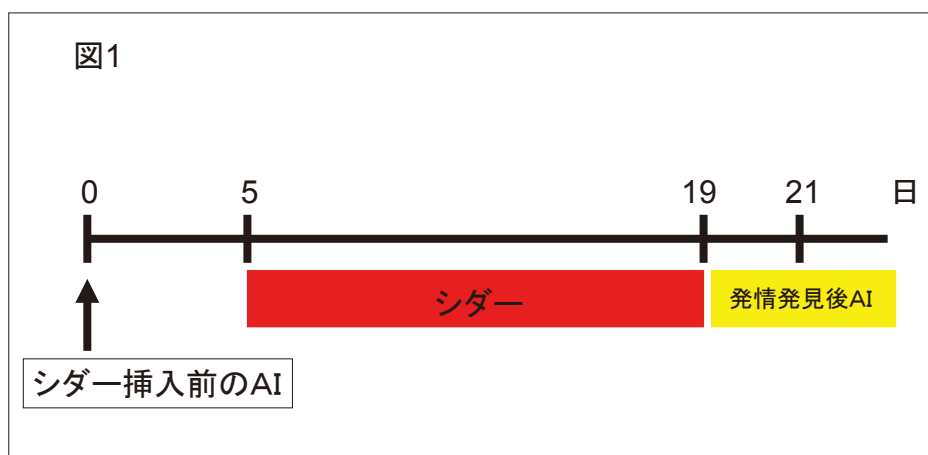


シダーまたは イージーブリードの活用法 続編



今回は、かけはし210号で紹介したシダーまたはイージーブリード（以下シダー）を人工授精後5日に挿入し、2週間留置しておいて、受胎率を高めようという方法を、ある農家に試験していただいた結果を書いてみたいと思います。

もう一度、このプログラムのおさらいです（図1）。人工授精後5日にシダーを膈内に挿入し、2週間後に抜去後、発情の有無を観察します。発情がなければ受胎している可能性があるというものです。

使用したのは、初産から4産までの20頭で、2回人工授精しても受胎しなかった乳牛です。この20頭の平均授精回数は3・7回でした。（試験期間中のこの農場全体の平均授精回数は2・1回でした。）またこの農場では、シダーを入れる前に必ず排卵確認を行っていただきました。排卵していない場合は再度人工授精を行っていただきます。結果は、20頭中12頭が受胎しました。試験の結果としては大成功ですが、偶然が重なったと言われれば何ともいえません。わかる範囲で、受胎した牛と受胎しなかった牛を比べてみました。受胎した牛の平均空胎日数は215日、平均授精回数は3・8回。受胎しなかった牛はそれぞれ172日、3・5回。空胎日数にやや差があります。分娩から日数が経っている方が受胎している傾向があるようです。

今回の受胎率だけを見ると、全国の受胎率が約50%だと考えると、それほどシダーを使って成果があったとは言いがたいです。「時間が解決した」、「もともと、受胎する時期だった」と言われてしまえばしょうがないのですが、この試験をしていた農家では、好印象でした。ただ、経費がかかるので、使用する牛を選別して使うことが必要なようです。筆者としても感覚的にはいいように思います。繁殖の使える一つの手段として覚えておいてほしいと思います。あなたの農場でも試してみてください。

（阿寒釧路家畜診療所診療課

石川 行二）